

## 令和 2 年度 第 2 回 下 関 市 立 図 書 館 運 営 協 議 会 議 事 録

開催日時	令和 3 年 3 月 23 日（火）14：00～15：30
会 場	下関市教育センター 3 階 中研修室
出席委員 （9 名）	吉光紀行委員 安富静夫委員 和崎法子委員 村岡亜由子委員 船瀬保美委員 倉本敦委員 白澤真史委員 田口美春委員 村田さつき委員
事務局 （11 名）	教育部 徳王丸俊昭部長 藤田信夫部次長 中央図書館 八角誠館長 萬松佳行副館長 米崎美帆館長補佐 升野明子主査 水戸麻紀子主任 豊浦図書館 日吉克浩館長 豊田図書館 高野修一館長 長府図書館 山路康正館長 彦島図書館 福原賢治館長
傍 聴 者	3 名
議 題	（1）令和 2 年度下関市立図書館基本計画年次計画（年度末報告）について （2）令和 3 年度下関市立図書館基本計画年次計画（案）について （3）その他

### （事務局）

令和 2 年度第 2 回下関市立図書館運営協議会を開催する。  
開催にあたり、下関市教育委員会教育部長が挨拶申し上げる。

### 【教育部長挨拶】

### （事務局）

委員 10 名のうち 9 名が出席であり、下関市立図書館運営協議会規則第 5 条第 2 項に規定する会議の開催要件を満たしていることを報告する。続いて本日の配布資料を確認する。

### 【配布資料確認】

**(事務局)**

これからの進行は、下関市立図書館運営協議会規則第5条第1項により吉光会長にお願いする。

**(会長)**

それでは、令和2年度第2回下関市立図書館運営協議会を開催する。議事に入る。議題(1)について、事務局から説明をお願いする。

**議事**

**(1) 令和2年度下関市立図書館基本計画年次計画(年度末報)について**

**【配布資料に沿って説明】**

**(会長)**

各館毎の年度末報告があったが、コロナ禍で、サービス展開ができなくなったこともあり、イベントを中止せざるを得なくなったということだが、仕方がないと思う。来年度に期待したい。この報告に対する意見や質問等があるか。

**(委員)**

この一年コロナ対策で、大変なご苦労があったと思う。まず感謝申し上げる。全体を通して、中間報告の時にも感じたが、それぞれの地域性が昨年度よりさらに色濃く映し出され、まさに基本計画の「人を支え 人を活かし まちをはぐくむ市民の図書館へ」にさらに近づいているような気がした。それぞれの図書館の人が見える感じがし、とても嬉しく思った。

1 ページの3、除籍した児童書を学校図書館に、ということ来年度も継続して実施するということであるが、除籍する基準に、令和3年度の年次計画に「活用をする」という言葉があり、その言葉に少し救われた。図書館で除籍した図書を学校図書館にということに引っかかる場所がある。その除籍の基準を聞きたい。

**(事務局)**

「下関市立図書館資料除籍方針」に従い、除籍している。学校へ譲渡した資料の多くは学校貸出用の図書である。複本を揃えているもののうち、あま

り貸出されなくなったものや、状態が良いものを学校へ提供した。内容が古いため除籍したものや状態が悪いものは廃棄しており、提供はしていない。通常の図書館資料リサイクル事業（除籍処理を行った資料をリユースする事業。）で提供する前に学校へ提供した。

#### （会 長）

菊川図書館でも資料の提供をしているが、中央図書館と除籍の取扱いは同じなのか、菊川図書館で単独の取扱いをしているのか。菊川も含めて、地域館の本も中央館に集めて譲渡会を行ったのか。

#### （事務局）

この度の譲渡会は、移動図書館の資料を含め中央図書館の資料を中心に一部長府図書館の児童書を含めて行ったもの。除籍基準については共通で、館毎に除籍対象になるかどうか判断して除籍している。除籍した資料だが、図書館としては置くことができないが、まだ活用可能な資料があるので、これらについてリユースという形で、基本的には館毎に、地域の方に提供している。今回新たな取組として学校への譲渡を行ったが、まずは実験的ということ、中央図書館にあるもので行った。今後どのような形がよいか検討しながら進めていくという状況である。

#### （会 長）

地域だけにしてしまうと、その図書館の本を他の地域でも欲しい場合があったりする。距離の問題もあると思うが、移動図書館や巡回図書移送など、物流を考えていただいて、全体の中でうまく活用できればと思う。今後の検討を期待する。  
他に意見はあるか。

#### （委 員）

豊田図書館で楽しそうなことをされているが、「絵本かるた」とはどのようなことをしたのか。興味があるので知りたい。

#### （事務局）

豊田図書館で開催した「絵本かるた」とは、絵本を絵札に見立て、絵本のあらすじなどが分かるような内容の読み札を作成し、カルタを行うイベントとして行った。絵札にする絵本を含め100冊程度の絵本を開催前に学校へ貸出し、事前に児童に読んでもらった。その際に学年に応じた本を用意した。

参加する児童が4チームに分かれ、チーム対抗で行い、4名の児童が同時にスタートし、中央のテーブルに置いた絵本を取るという形をとった。これは新型コロナウイルス感染防止のため、多くの児童が密にならないようにということで行った。同学年で行うチームもあれば、全校児童で行う学校もあり、先生方からはとても盛り上がったと大変好評であった。

**(会 長)**

学校図書館とのコラボということだろうか。

**(事務局)**

この度は学校の授業の時間に図書館職員が出向いて実施した。先生方のご協力もあり、授業の中で貸出した絵本を読み聞かせしたり、図書室の本を読んでもくださったりということもしていただいた。学校の先生方との交流ができる機会となったのではないかと思う。

**(会 長)**

確かに学校との連携はあると思うが、学校にも学校図書館があるので、学校図書館の位置づけをきちんと出して、学校図書館との連携を表面化したほうがいいと思う。学校図書館というものの存在意義を出した方がいいと思う。その辺を検討していただけたらと思う。

**(委 員)**

豊田図書館は地域に出向いての「絵本かるた」もそうだが、地域の方に回覧板で図書館の情報を発信されているというのは、とても素晴らしい取組だと思う。ひとつ気になったのは、回覧されている「新着資料案内」の大きさはどれくらいなのか。字が小さいと読みにくいのではないかと思います。お尋ねした。

**(事務局)**

サイズはA3で、ご高齢の方でも見ていただけるサイズである。

**(委 員)**

2ページの中央図書館だが、報告には記載がないが1年を通しての感想を述べる。中央図書館の中に、人権・男女共同参画課との人権問題、健康推進課とのがんに関する図書のコーナーや、パブリックコメントを図書館の中で実施するなど、他課との連携をしていると感じ、とても素晴らしいと思う。今後も続けていただきたい。

4 ページ、彦島図書館だが、令和3年度は豊浦図書館でも歴史講座を計画しているようだが、彦島図書館は彦島に沿ったテーマを掲げていたのか。豊浦図書館は豊浦の地域に関連されたテーマで開催されるのか。

**(事務局)**

講座の内容として、平氏ということで、一部彦島地縁もあるが、テーマとしては下関市全体として実施した。

**(会 長)**

歴史講座は、部分的にその地区だけのものを当該地区だけにするのもいいが、できれば巡回講座として行くと、どの地区でも平等に歴史講座を聞くことができるのでさらによい。その地区毎の特徴があるので、全体を巡回するというのもいいかと思う。

**(会 長)**

他に質問はないか。事務局から何かあるか。

**(事務局)**

たくさんのご意見ありがたく思う。また、提案をいただき実践に向け、励みたいと思う。

**(会 長)**

では、議題(2)について事務局からの説明をお願いします。

## **議事**

### **(2) 令和3年度下関市立図書館基本計画年次計画(案)について**

#### **【配布資料に沿って説明】**

**(会 長)**

報告に対するご意見、ご質問があるか。

**(委 員)**

1 ページに「行政資料の充実と利用促進」とあるが、とても大切なことだと思う。以前長府図書館に地域の行政文書があったが、今は豊北歴史民俗資

料館にある。この資料を大切にしてくれたのが豊北歴史民俗資料館の吉留館長である。どういう資料があるか具体的に言うと、彦島地域が合併する時の議会の資料等、貴重なものがある。彦島に限らず、王司や清末、安岡等、地域の行政資料が歴史民俗資料館のプレハブの中にある。今は吉留館長が大切に保管している。これをぜひこちらに持って帰って、各館に分散するよりも中央図書館で統括して保管するほうがよい。やっておかないと、やがて分からなくなって消えてしまう。行政資料をいかに大事に保管するかは、山口県下でも検討されているところである。計画の項目には具体的には書かれていないが、下関市でもぜひこのことを加えておいてほしい。

もう1点、以前乃木文庫が長府図書館に遺言にて所蔵していた。今は長府の歴史博物館の所蔵となっている。現物は以前の長府博物館内にあるが、雨漏りがしているため、まずは修理しないとフロアが全部水に浸かってしまう。歴史博物館で保存するのはいいが、そちらの収蔵庫がいっぱいに移すことができない。それだけの貴重な資料を雨漏りする施設に置いていいのかということになる。長府図書館に戻しても、無理だろうと思うし、中央図書館6階の自動化書庫へ保管転換して大事に保管していただけたらと思う。ぜひやってほしい。

#### (会 長)

行政資料については、本来アーキビストの役目であり、通常は文書館が集めるということであるが、山口県であれば山口県立図書館とは別に、山口県文書館が存在する。行政文書は、新しいうちは行政資料であるが、これが百年経つと歴史資料になる。図書館の一つの役目として、将来に渡って歴史的資料を含めて残すということ、保管すること、伝えるという大きな役割がある。行政資料や貴重資料の保管、公開の方法を検討したほうがよい。

図書館は図書館たる形で活動しようと思うと、例えば、いろいろな行政の広報も、それぞれの窓口に行かなくても、図書館に行けば行政情報が分かるようになるなど、図書館は本を読むだけのところではなく、活用範囲が広がるのではないかといつも感じている。

行政文書を保存・保管し、後世に伝えるということは、必ずやらねばならない。プロジェクトかどうかは分からないが、立ち上げて検討してもいいのではないか。検討することが第一段階であり、実際に実行に移す時に、保管や修理をどうするのかという話になる。調査も必要であるが、その前にそういうことを議論することを作って始めてもいいのではないか。

(委員)

その話を聞いて愕然とした。ぜひ進めていただきたい。以前、図書館運営協議会で、長府図書館の文書館を見学したことがある。その時に、図書館学専門の委員が、その保管状態に大変驚いていた。大切な資料は温度や湿度など、長期に渡ってその資料が確実に良い状態で保管されていくことが大切なのだが、これは少し残念な状態であると言われたことをとても覚えている。ぜひ検討していただきたい。

(委員)

整理収納アドバイザーと、防災士という資格を持っており、日頃微力ながら活動させていただいている。以前各図書館には地域の災害の記録があると伺ったことがある。前年度に、地域の災害のことを調べるためにある図書館に伺った時に、市の歴史の本しか見せていただけなかった。具体的な地域の災害の資料がどこまであるのか分からないが、行政の資料だけではなく、一般市民が地域で起こった災害が調べられるとありがたいと思う。検討していただけたら嬉しい。

(会長)

紙資料については、最近の中性紙だと、保管状態が良ければ百年くらいは持つが、昔の酸性紙は、戦前戦後に造られた紙だと30年くらいで悪くなり色が変わって読めなくなる。国も行っているが、そういった保存計画は世界中で始まっていて、例えば酸性紙だと古くなるとパリパリの状態になるが、それを脱酸処理して柔らかくし、めくれる状態にしたものをデジタル化し、保存するというをやっている。和紙だとすると、虫が付かなければ千年でも持つが、普通の洋紙は持たない。特に酸性紙だと、紙を外に置いておくと1日くらいで色が変わってしまう。紫外線で固まってパリパリの状態になって開けなくなる。開けないとただのゴミになってしまう。そういう面では紙資料の保存はしっかり考えた方がいいと思う。それから福岡県には、一つの市町村では文書館が持てないということで、共同の文書館を持っている。そこでは各市町村からの行政文書が来たら整理をして、共同で保管している。今我々は文字資料をできるだけ後世に伝えられるようにしておくということは、図書館としても非常に重要なことだと思う。行政文書に限らず、後世に伝えるべきものは、保存し、場合によってはデジタル化して公開するなど、世界的に動いている。日本にはアーキビストが少ない。一つの市ではあるが、そこからでもやっていかないと、下関市の行政資料は無くなってしまいうことは寂しい限りということになると思う。よろしくお願ひしたい。

(委員)

災害の歴史というのは『下関市史』や菊川町であれば『菊川町史』豊浦町であれば『豊浦町史』がある。

(委員)

それ以外のものないのか。

(委員)

行政文書は残っていないと思う。地域にそれぞれのところに『やすおか史誌』や『よしみ史誌』などはある。それらをめくっていくのも一つの方法である。

(会長)

補足だが、町史というのは国立国会図書館へ行けばある。納本制度があるため送らなければいけない。最終的にはそちらへ行って調べられる。ただ、調べるのに時間がかかる。

(委員)

1 ページ一番上の「下関市立図書館の業務やサービスについての広報を行います」とあるが、サービスの対象者を幅広く考えていると思う。令和元年に「読書バリアフリー法」が施行されているので、そのあたりの視点も盛り込みながら、障害を持つ方、高齢者の方の視点もぜひ入れていただきたいと思う。また、広報に関連して、現在システム入替のため市内全館が休館中だが、市民にとっての一番のツールは、家にいながらいただく市報である。市報のどこに掲載されているかを見たが、後ろの休館のところにもとめられているのだと思ったが、見逃してしまいそうなほど字が小さく掲載されていた。市民に親しまれている図書館が長い間休館になるということは、もう少し大きな字で、紙面を大きく市民に知らせられたらと思った。図書館の存在価値をもっと伝えたいと思った。図書館に行ったが休みだったという声も届いている。感想である。ワクチン接種が進んだとしても、コロナの状況は不透明でどうなっていくのだろうかという中で、図書館というのは市民のよりどころであり、コロナ禍だからこそその図書館の役割というものがある。他の社会教育施設と横並びで休館も仕方がないが、図書館は市民のよりどころということを伝えたいと思う。



**(委員)**

7ページの豊浦図書館について、とても良い取組だと思う。令和2年度の彦島図書館での歴史講座と同じような内容で開催されるのかと、内容を読むとそう感じるが、歴史講座をどのような内容で何回開催される予定なのか。彦島図書館でのこのイベントをどうやって知ったかというアンケートでは、図書館掲示物が最も多かったとの回答であった。どのように発信するのか予定が決まっているのか。豊浦町内は、各公民館だよりであれば全戸配布しており、地元のまちづくり協議会の広報も全戸配布である。どこかに載せることで、図書館に日頃足を運ばない方の目に付くのではないか。開催回数などが分かれば願います。

**(事務局)**

今現在のところでお答えする。回数は3回を予定している。テーマは、彦島とは違うテーマを含めて、変えていく予定である。広報の方法等、公民館だよりの掲載も可能であると思われる。広報の方法についてはまだ固まったものはないが、考えているというところである。

**(会長)**

2ページの中央図書館のビジネス支援コーナーの充実と利用促進についてであるが、「ビジネス支援コーナーで特に利用の多い就活・就業」と書かれているが、ハローワークとの情報収集や連携をどう考えているのか。

**(事務局)**

地元の就職支援団体等に、就活セミナーの案内チラシの提供を依頼することとして、依頼先を調査し、案内の方法を検討しているところである。

**(会長)**

ビジネス支援というと起業やどういう仕事に就いたらいいのかという相談があると思うので、そういった面では関係する機関との連携も視野に入れるとよいと思う。

**(委員)**

全館に共通するが、おはなし会が休みになっている。豊田図書館や菊川図書館で数回開催できたところもあるが、おはなし会の再開の目安はどのように考えるか。

**(事務局)**

おはなし会で特に子供向けのケースだが、非常に苦慮している。子供たちがずっとじっとしているというわけにはいかず、距離を取ってしまうと臨場感が伝わらない。子供向けのおはなし会については、慎重にならざるを得ないという状況で、具体的にどういう時期が来たら開始できるということは申し上げにくい。

#### (会 長)

コロナが収束しない限りは日常が戻らないというのは承知しているが、できるだけ早い時期に再開できればと思っている。2ページの「親子の読み聞かせ支援」で、子供が生まれた時に「ブックスタート」があるが、ブックスタートによってどのような成果が表れているのか。

#### (事務局)

ブックスタート利用に関して、それによって行動変容が起きたなど、数値的な結果は取れていない。本市の場合、子育て支援として、親が子供と触れ合うためのツールがあるということを知っていただくということに重きを置いている。まずは本を差し上げることによって、読み聞かせも触れ合いの方法としてあるということを知っていただくということがスタートだということとで継続している。

#### (会 長)

なぜ読書をしなければならないのかということとは、「読書活動の推進に関する法律」にもあるが、人間形成というところに重点が置かれているのではないかと思う。自分の人生としてすべての体験ができるわけではない。読み聞かせなどの読書活動によって、体験の補完ができることから、読書は人間形成に重要であり、ぜひ進めてほしい。

#### (委 員)

豊田図書館でされている「絵本かるた」がとても魅力的でいいと思う。子供の読書推進として、子供が本好きになるきっかけにもなる。図書館の方は大変だろうが、豊田だけではなく他の図書館でも同じように小学校に行って実施するところから始めて、できれば市の出前講座の一つに「絵本かるた」が入るといいと思う。

#### (事務局)

「絵本かるた」は大変好評と聞いている。取組を始めたばかりで、第1回、第2回の反省点として、もう少しこうしたほうが良い、スムーズにできたという報告が上がってきている。それをオーソライズしていくことによって、今はまだ小規模な学校でないと難しいが、広げていく方法を見出せばと思っている。

#### (会 長)

ぜひ願います。絵本かるたバトルといったものも開かれるとよい。競争するわけではないが、モチベーションが上がると思う。

#### (委 員)

檜崎小学校で、児童が読んだ本の内容を話し、各班でこの本を推奨して参加者が投票する「ビブリオバトル」があった。初めて参加してとてもいいと思った。先生や児童も参加したが、子どもが提案した本も並べ、あとで投票して、見ながらその本を読みたいと思い、とても楽しかった。「絵本かるた」もとても良いが、こういった取組がいろいろなところであったらぜひ参加してみたいと思った。

### 議事

#### (3) その他

#### (会 長)

では、議題(3)その他に移りたい。何か今までのことでも意見や報告があれば願います。

なければ、事務局からの報告をお願いします。

### 資料3 新しい図書館電算システムについて

#### 【配布資料に沿って説明】

#### (会 長)

4月1日より新しいシステムに代わるということで、最近のスマートフォン対応もあるということだが、前のシステムはどれぐらいの期間稼働されていたのか。

**(事務局)**

平成22年から10年間である。

**(会長)**

同じシステムを10年間ということか。最近のITの進歩は激しいため、10年では古くなってしまふ。今度もシステム変更があると思うので、いろいろな機器に対応することになると思う。もしクラウドサーバーを使うのであれば、情報流出の防止策についてメーカーによく確認したほうがよい。レファレンスはスマートフォン対応か。

**(事務局)**

基本的にはスマートフォン対応である。

**(会長)**

読書シールだが、返却期限が書いてあるレシートの代替となるのか。

**(事務局)**

別である。レシートは、レシートとして発行しており、それとは別にシール形式のものが出せるということである。裏が糊付けで、シールをはがして貼り付けるものである。

**(委員)**

以前のパソコンは検索がとてもしにくく、少し入力が違うとすぐに検索できませんと表示が出ていた。図書館でもOPACでうまくヒットできなかったため、OPACや検索の使い方など、前と比べ使いやすくなっていると思うが、どうだろうか。

**(事務局)**

今の水準で言うと、従来のものは使い勝手がずいぶん悪い点があったかと思う。すべてが解決するかどうかケースバイケースであるが、現在の水準となるということで、使いやすくなると考えている。

**(会長)**

特に最近のシステムは機械の性能が上がっているので、昔のようにキーワード検索しかできないということもなく、そのあたりは影響ないと思われる。

システムにかかるお金との関わりはあるが、便利になることはいいことだと思う。

(会 長)

次の説明をお願いしたい。

#### 資料4 下関市立図書館の開館時間等の見直し検討について

##### 【配布資料に沿って説明】

(会 長)

働き方改革やサービスの向上、質の変化などで開館時間等の見直しを図るということで、いろいろな調査をして検討をされているということである。よくあるのが月曜日休みである。月曜日を利用したいという人もいる。月曜がいいのかということも職種によってもあるが、検討願えればと思う。365日開けていることが一番良いが、人件費の問題や働き方改革ということもあるため、できるだけ支障のない形で検討していただければと思う。例えば館毎に休みの曜日を変える、今日は中央図書館が閉まっているから彦島図書館へ行くなど、どこか開いている場所があると、休んでもいいかと思う。そういった面で工夫して考えてもよいのではないか。どこかの館が必ず休みになると難しい面もあると思うが、あまり影響のない形で考えられたらと思う。

(委 員)

これは中央図書館が5年間指定管理で受けていた時の状況がこういった状況である。この機会に全館統一して、市内の図書館の管理をしていただけたらと思う。当時、指定管理者になかなか受け入れてもらえなかった。ぜひこれはやっていただけたらと思う。

(会 長)

事務局からの報告は以上だが、他に、全般的に質問等はないか。

(委 員)

質問ではないが、伝えたいことがある。顔見知りの図書館員に、近くの書店の児童書コーナーで出会った。図書館で選書した図書の現物を見るために時々書店に足を運んで、現物を見てから決めているとのことで、とても感動

した。図書館員がより良い本を子どもたちに提供したい、渡したいとって、見えないところで尽力いただいていることに感動し、ぜひ伝えたいと思った。

**(会 長)**

図書館司書の技術だけでなく、サービス向上というところについては、勤務時間以外でも努力されていると思う。それは外には見えない。外にも図書館でやっていることを見せるという戦略を取ることも一つの方法である。

**(委 員)**

下関市立歴史博物館と連携、という項目が豊浦図書館にあったが、最近、地域の主催で歴史博物館の学芸員の講話を聞いた時に感じたが、図書館に来て学ぶということもとても良いことだと思うが、近いと言いながら、わりと遠いということで、高齢者の方たちは出かけるのに不便だという方もいる。こういうところと提携を結んで、地域の歴史でもよいが、下関市の歴史をまだまだ知らないことがたくさんあるので、それを細分化して、図書館だけではなく地域の公民館などを活用して、小規模でもよいので開いていただければ、地域の方も聞いてみようか、そのことについてもう少し深く考えてみようかという想いがわくのではないか。菊舎の話を先日若い学芸員の方がされて、以前話された方とはまた違った見方をされて、とても興味津々で話を伺った。細分化して、出前のような形でしていただけたらいいかと思う。これは希望である。

**(会 長)**

では本日の議事は以上となる。議事進行へのご協力を感謝する。  
以上で令和2年度第2回下関市立図書館運営協議会を終了する。